

1-1 那須塩原市水道事業ビジョン策定の趣旨

本市では、平成 20(2008)年 3 月に「那須塩原市水道事業基本計画（地域水道ビジョン）」（以下「前回ビジョン」という。）を策定し、向こう 10 年間における水道事業運営の指針を示しました。

その後、東日本大震災（平成 23(2011)年 3 月）や関東・東北豪雨（平成 27(2015)年 9 月）において、本市の水道施設は甚大な被害を受け、一部地域のお客様に給水停止をお願いすることとなり、「災害対策の強化」が課題として浮き彫りとなりました。

また、本市の人口は、他都市と同様に減少傾向にあり、これに伴う水道料金収入の減少が課題となっています。一方で、水道施設の老朽化も進んでおり、中長期の視点に立った効率的な施設の更新が求められています。

このような状況の中で、厚生労働省は平成 25(2013)年 3 月に新水道ビジョンを公表し、災害対策や人口減少を踏まえた施策の強化を提唱し、「安全」、「強靱」及び「持続」の 3 つの観点から水道事業の抱える課題に対する対応策と目指すべき方向性を示しています。

そこで、前回ビジョンの計画期間満了を迎えるに当たり、新水道ビジョンの考えの下、将来を見据えた事業計画を立案し、より効率的な水道事業の運営を目指し、新たに「那須塩原市水道事業ビジョン」を平成 28(2016)年 9 月に策定しました。

その後、気候変動影響の顕在化や新型コロナウイルス感染症蔓延など社会情勢は大きく変化し、本市水道事業においても、本計画に掲げた事業を進めるに当たり、新たな課題が浮き彫りとなってきていることから、計画期間中間年度である令和 3(2021)年度に本計画の改定を行うものです。

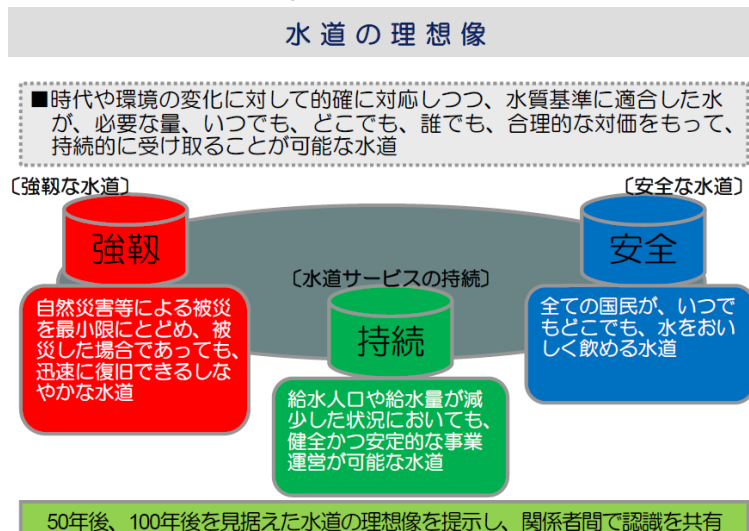


図 1.1 新水道ビジョンにおける水道の理想像（「厚生労働省 新水道ビジョン」から引用）

## 1-2 那須塩原市水道事業ビジョンの位置付け

本市の給水区域は、人口が集中する市街地のほか、山岳部、山間部及び農村部の比較的人口密度が低い地域や観光地が存在します。

特に那須野が原開拓を支えた水の大動脈である日本三大疏水の一つである那須疏水は、およそ130年経った現在も、本市の農業用水及び上水道に、その役割を果たしています。

那須塩原市水道事業ビジョンは、このような本市の特色及び特性を生かしながら市の総合計画及び定住促進計画の基本方針を基に、厚生労働省が策定した新水道ビジョンを踏まえて、「安全」、「強靱」及び「持続」の各分類における本市の課題について、体系的に整理し、具体的な施策を示すものです。

計画期間は、平成29(2017)年度から令和9(2027)年度までの11年間です。今後、予想される人口減少下における施設の再構築や利用地区での環境の変化、あるいは社会情勢の変化等に柔軟に対応するため、適宜必要な見直しを図ります。

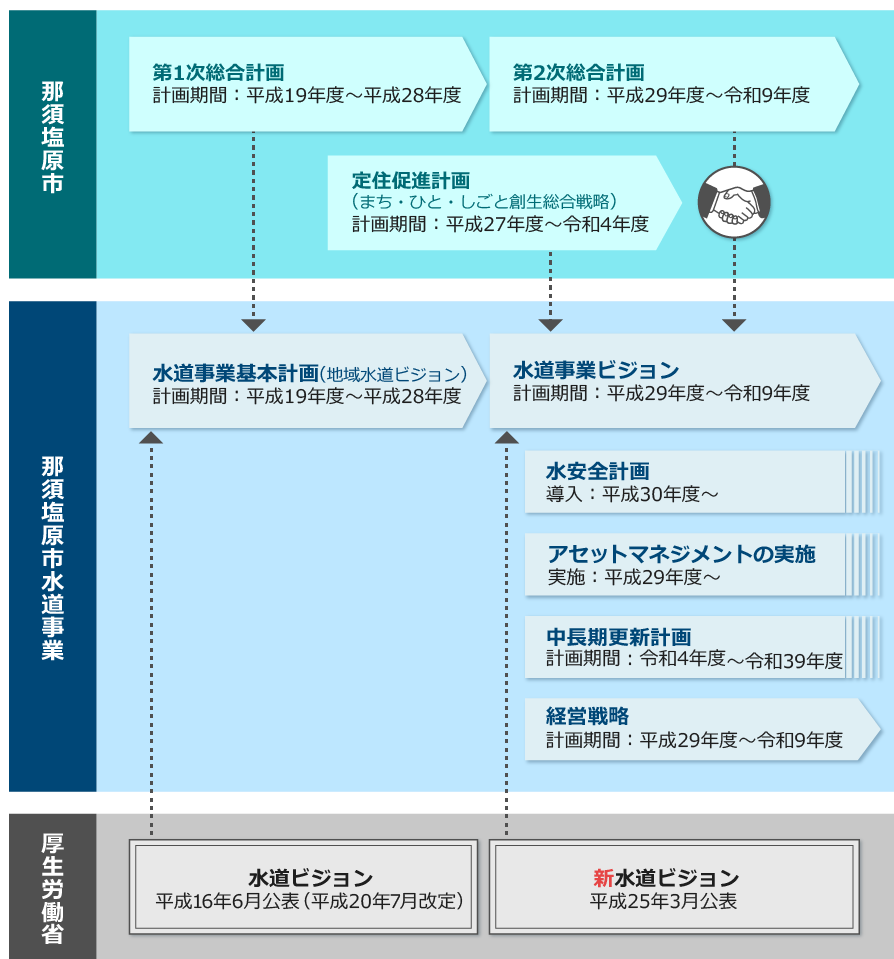


図 1.2 那須塩原市水道事業ビジョンの位置付け